

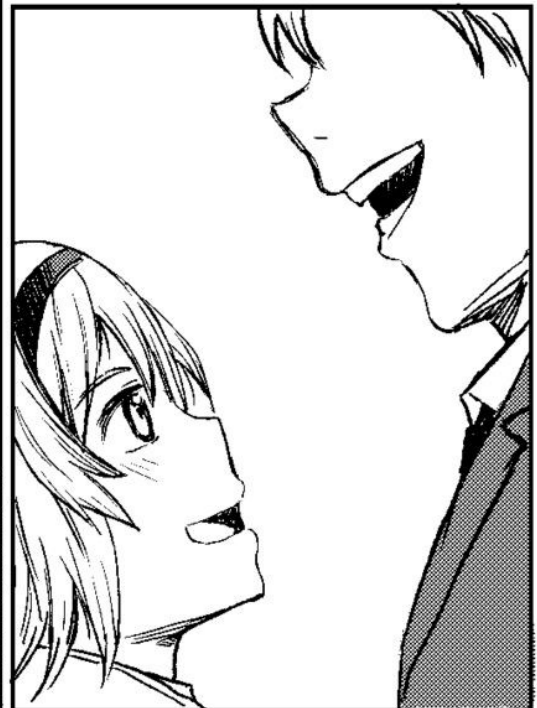




ボクは幼い頃から
かすみれい
花澄玲のことが
好きだった

ある日玲^{れい}が
告白されているのを見た

相手はイケメンの先輩で
どの女とヤツたとか
自慢するようなヤツだった



玲^{れい}が
そんな最低な男に
笑顔を見せたのが
ひどく悔しかった



しげらしくして玲を
「秘密基地」に呼び出した

ボクの
嫉妬心は燃り続け
逆恨みの炎へと
育っていた



別にあの男が
憎かった
わけじゃない

よく2人で
遊んだね

ここで

ただ
玲はボクを選ぶと
心のどこかで思っていた



あたしも
彼氏持ちに
なっちゃったし

2人で
遊ぶのも
難しくなったね

ボクらの心は同じだと
信じていた

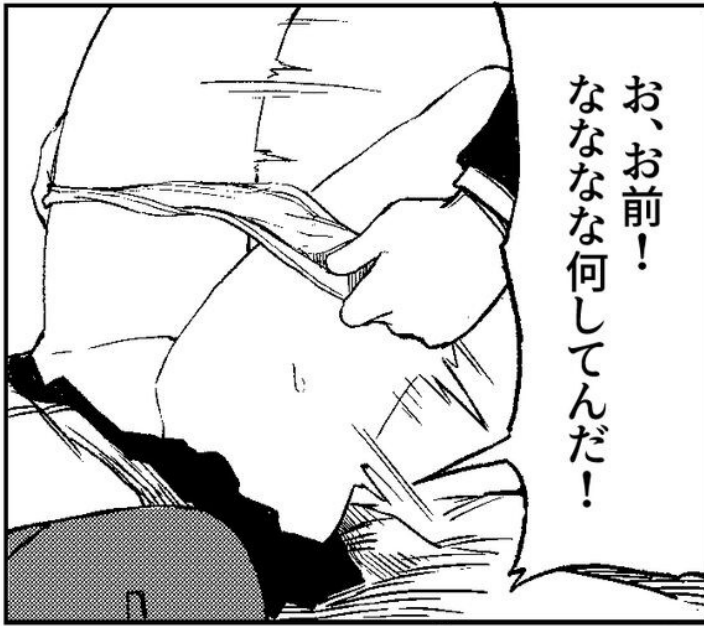


最初にボクは
唇を奪った

突然のことに
緊張して硬直した玲を
素早くベッドへと繋ぐ

玲は何かを
言っていたが
ボクはそれどころ
ではなかった







友達だと思ってたのに！

その言葉が
ボクを一番傷つけた

がああああ
やめろおお





アッアッアッアッ

アッアッアッ



ボクの童貞を
玲の膾壁のやすりで
削ぎ落した

びゅん
びゅん
びゅん

ただ
玲の初めは
そこにはもうなくて
濡れて絡みつく
快樂構造だけが
あつた



怒りが掌へと走った



ふざけんな
抜け！くそ！
やめろ！



玲は静かに
涙を流すだけに
なった

これでようちん
彼女もボクも
お互いをゆっく
り感じあえる



玲の腔内は
少し動く
と絡みついてくる
開発された名器だった



童貞だったボクには
その刺激は強すぎて
即射精するかと思った



ああ……っ！

激しっ——！

動く……なあっあっ

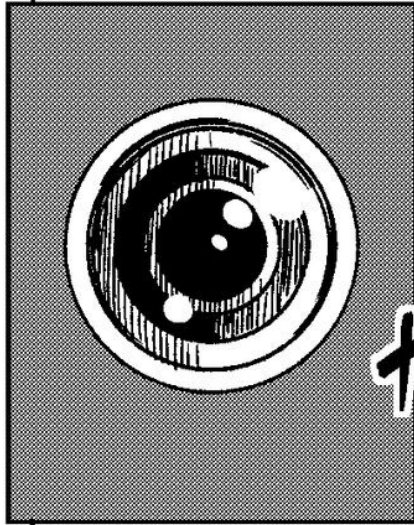


なか
腔内に!



こうしてボクらは
繋がることのできた

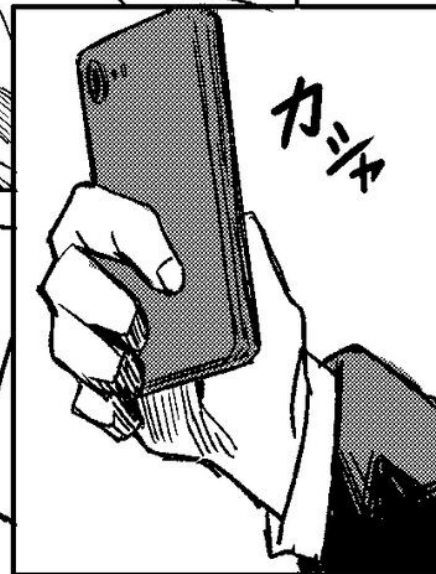
カッパ



カッパ



玲は嫌がっていたが
玲の膣内は
ボクのペニスを愛撫して
精液を無理やりに搾り取った



カッパ



4回射精した
膣内から抜けないまま

ボクが萎えても
玲の膣内はいやらしく
蠢き絡みついて
勃起と射精を強制し





THE END